

# さまざまな団体 Vol.12



## 市民福祉ネットワークひろしま加入団体紹介

**生協ひろしま 暮らしの助けあい** 生協ひろしまの組合員同士が日常の暮らしを助け合うことを目的として活動しています。

- 【対象】**  
○生協ひろしまの組合員で、高齢、障害、病気等で支援が必要な方
- 【活動内容】**  
○日常生活のお手伝い  
(掃除、洗濯、食事づくり、見守り、話し相手など)  
○ちょっと大がかりなお手伝い  
(ガラス拭き、草刈り、季節の衣替えなど)
- 【活動費】**  
○600円～1,000円/時間プラス交通費
- 【問い合わせ先】**  
〒730-0802 広島市中区本川町2-6-11 第7ウエノヤビル4階  
TEL&FAX 082-503-0686  
受付時間 10:00～17:00 月～金(祝日を除く)

## ボランティア情報センターに利用登録している団体紹介

### 広島ダルク

広島ダルクは、薬物依存症に苦しむ本人・家族・関係者を対象にした団体です。その人にあった更生支援・再発防止・社会復帰のサポートをしていくとともに刑務所や病院での薬物依存離脱教育の実施や学校での薬物乱用防止教育への講師派遣と様々な活動を行っています。

- 【活動内容】**  
○島根旭社会復帰促進センターでの薬物依存離脱教育(月2回)、尾道刑務所(不定期)・広島拘置所(年6回)・瀬野川病院(月2回)へのメッセージ活動  
○県薬務課や精神保健福祉センターと連携をとりながらの本人・家族・関係者の相談支援  
○学校・教育機関等での薬物乱用防止教育への講師派遣
- 【問い合わせ先】**  
広島ダルク TEL&FAX 082-258-1256

### 勇気と希望で仲間をつくる会

野宿生活を経験し、豊に上がって自立生活をはじめました。でも、一人ぼっちにならないよう、そして地域社会の一員として何かお役に立てるよう、希望をもって生きていくための会です。

- 【活動内容】**  
○ミーティング及び夕食会  
自炊ができることが目標です。メニューは、皆の希望を聞いて決めています。食材を買うために、集まった人数で割り勘をしています。  
○ボランティア活動  
新しい仲間への相談活動、仲間の家への訪問活動、男手が必要な時のボランティア、経験を語るボランティアなど
- 【問い合わせ先】**  
広島市ボランティア情報センター  
TEL 082-544-3399 FAX 082-544-3404

## 福祉器材を貸出しています

広島市ボランティア情報センターでは、車いす、点字板、高齢者疑似体験セットなど、福祉教育や研修の場面でご利用いただける器材をそろえています。本年度も、たくさんの方にご利用いただきましたが、利用される器材の種類によっては、申込が多いためご希望どおりに貸出しできない場合があります。

貸出しを希望される方は、早めにボランティア情報センターにご連絡ください。

また、福祉に関するビデオ・DVDや書籍も貸出していますので、併せてご利用ください。



高齢者疑似体験セットを利用した研修会



小学校で行われた車いす体験

## ご寄贈ありがとうございました

峯グループ様より、高齢者疑似体験セット(大人用)を3セットご寄贈いただきました。

高齢者疑似体験セットは、特殊なメガネ、ひざやひじのサポーター、重りを付けた上着などを装着することにより、身体を自由に動かすことができない高齢者の体験をする道具です。筋力の衰えや視力の低下、身体機能の低下や心理的变化を疑似的に感じることができます。



## 今後のボランティア募集の予定

このほか、ボランティア募集やボランティア講座なども市社協ホームページで、随時お知らせしますので、ご覧ください。

- 5月3日～5日** フラワーフェスティバル開催中に  
車いす貸出・介助ボランティア、「ふれあい広場」  
「イクちゃんベビールーム」でのお手伝い
- 8月6日** 広島平和記念式典での  
車いす介助ボランティア

- 6月17日～19日** 第36回全国パーキンソン病友の会  
全国総会 広島大会での行事支援

- 8月11日～12日** 全国障害者問題研究会  
第46回全国大会広島2012での行事支援



広島市  
ボランティア  
情報センター

# NEWS

ふれあいネットワーク

社会福祉法人 広島市社会福祉協議会

URL <http://shakyo-hiroshima.jp/>

〒730-0052 広島市中区千田町一丁目9番43号  
広島市社会福祉センター内 TEL(082)243-0051代表  
広島市ボランティア情報センター直通  
TEL(082)544-3399 FAX(082)544-3404

E-Mail: [voinfo@shakyo-hiroshima-city.or.jp](mailto:voinfo@shakyo-hiroshima-city.or.jp)

2012.03

No. 26・27



## ひろしまから発信する 「3.11絆を深める黙祷のよびかけ」

東日本大震災の被災地から広島市内に避難してこられている方々の支援を行っているボランティア「ひろボラネット」のミーティングで、「震災から1年を迎える3月11日。みんなで何か一緒にできないだろうか…」といった意見が出ました。

これまでの支援活動で交流のあった団体から多くの賛同が得られ、実行委員会を組織。次の2つの企画ができました。

一つは、「3月11日14時46分に、皆様が居られる場所で、隣の人と手をつなぎ、被災地に向かって黙祷しましょう。」という呼びかけ。全国、どこにいらっしゃる方々にも、今年も、来年も、再来年も…続けていきたい活動です。

もう一つは、「追悼の集い」の開催。17時30分から平和記念公園原爆ドーム対岸の「親水テラス」に約700人が集いました。



「3.11キャンドル」にメッセージも書き入れました

## 3.11 絆を深める 黙祷のよびかけ

東日本大震災が発生した**3月11日14時46分**に、  
皆様が居られる場所で、隣の人と手をつなぎ、  
被災地に向かって黙祷しましょう。

主催 3・11東日本大震災を忘れない追悼の集い広島 実行委員会  
ひろボラネット・Rapport・広島YMCA・福島の子どもの「サテライト訪問」を実現する会  
特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター・広島福祉人材確保合同協議会・生協ひろしま・青年海外協力協会中国支部  
ボランティアひろしま・特定非営利活動法人ANT-Hiroshima・特定非営利活動法人もちもちの木  
2012国際女性デーひろしま実行委員会・広島司法書士青年の会

連絡先  
広島市ボランティア情報センター tel 082-544-3399

3月11日 14時46分。みんなで手をつなぎあい、深く  
思いを寄せて祈りましょう。



# 東日本大震災への支援活動について

## 「広島市被災者支援ボランティア本部」は・・・

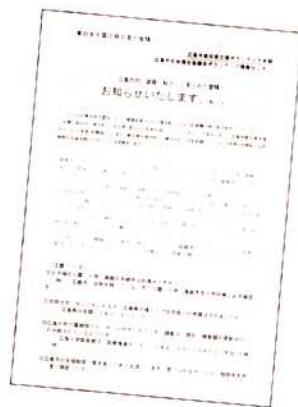
- 被災地ではないところに開設した送り出し型のボランティアセンター
- 被災地・被災者を支援したいという広島市民の思いを受け止め、活動につなぐ情報収集・情報提供、活動調整等を行う
- 運営スタッフは、本部構成・協力団体+事前登録ボランティア有志
- 広島市内への避難者も多く、該当者情報も得られたため、避難者支援も積極的に行う
- 広島市社会福祉協議会の独自事業として「見舞金」を支給する



活動を通じて実に多くの個人、団体の方々と知り合い、協力しあう関係ができました。平成22年9月に開催した「全国ボランティアフェスティバルひろしま」で培ったネットワークも活かしました。まさに「つながる民力いかしあう民力」の実践です。

## 1 避難者支援

※平成24年3月13日までに  
広島市内に避難:169世帯 420名



### ①「お知らせいたします」

全国避難者情報システム登録者や市社協からの見舞金贈呈者等に、交流会や茶話会の開催案内、他団体からの各種招待行事のお知らせ、各種情報提供、ニーズ把握のための「お知らせいたします」をお送りしています。(3月13日現在、140世帯にNo16まで送付)

- 応援している人たちの存在を知らせることができました。“安心”の一つにつながったのではないのでしょうか。

### ②被災者交流会の開催

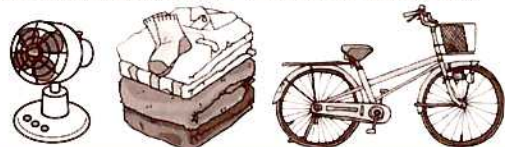
5月7日(土) 12:00~15:00	12世帯27名参加
託児、情報交換、生活用品提供、ボランティアによる手作り献立で会食	
6月4日(土) 10:00~16:00	28世帯69名参加
一緒に調理・会食、情報交換 世話人選出(企画、準備、新聞発行ほか)	
7月9日(土) 10:00~14:00	30世帯84名参加
子どもプログラム(健康科学館へ)、情報交換	
9月11日(日) 13:00~16:00	17世帯41名参加
子どもプログラム(レクリエーション)、情報交換	
11月3日(祝・木) 10:00~16:00	14世帯39名参加
芋煮会 これまでお世話になった方々を招待(70名参加)	

- 避難して来た人同士の出会いの場、市民・ボランティアとの出会いの場となりました。「ひとりじゃない」、「支援を受けるばかりでは心苦しい」、こんな声が聞かれるようになりました。

### ④生活支援～生活用品の収集・提供

自転車、家電、家具、消耗品、衣類、米・・・

- 避難者からのリクエストに応じて、実にたくさんの方が提供してくださいました。
- ♥この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



### ③被災者・避難者主体の交流会・茶話会を支援



こんな声を背景に、主体的な動きが出てきました

- 茶話会開催
- 広島での暮らしを安定させたい
- 地元に残っている人を応援したい・声を届けたい

茶和会一わちあいの会	第3土曜日午前 中区内のお寺
広島と福島をつなぐ 第4土曜日の会	第4土曜日午前 西区内の保育園
コーヒータム	(一人で避難してこられた方対象) 不定期
交流カフェ	第1土曜日午後 市社会福祉センター 福島からの避難者と「ひろボラネット」が呼びかけ
東京・神奈川からの避難者のつどい	2月26日に初回

※そのほか、段原公民館や吉島老人いこいの家を会場にして1回ずつ開催

### ⑤個別相談支援

子どものこと、美容院、引っ越しに伴う荷物運搬、網戸取り付け、保育料減免要望、自主避難者への住宅相談、病院紹介(救急、出産)、手話通訳、民間住宅を応急仮設住宅扱いに、仕事探し、保育所入所手続きと住民票、内部被曝調査、留守家庭子ども会への送り、私立幼稚園の補助制度延長要望、水道料金減免延長要望、固定資産税の手続き、半壊家屋の今後について、さまざまな社会資源紹介など。

No.25で開設のお知らせをした「広島市被災者支援ボランティア本部」。  
広島市ボランティア情報センターは、一構成団体として、また、本部開設拠点として、次のような活動を展開しました。

## 2 被災地支援

### ①ボランティア研修会

内 容	開催日	人数
事前登録者研修会(先遣隊の報告とプロジェクトごとの打ち合わせ)	4月23日(土)	128名
被災者支援ボランティア活動報告会(支援地域ごとに情報交換)	10月1日(土)	52名
災害ボランティア研修会(災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の桑原英文さんと岩沼市社協職員を招いて～ボランティアコーディネーター養成講座特別編～)	2月6日(月)	77名

### ②ボランティアバス参加者募集、運行

内 容	期 間	人数
宮城県岩沼市で活動(広島市社協主催)	4月26日(火)～29日(金)	20名
「遠野まごころネット」を拠点に、岩手県沿岸部で活動	6月24日(金)～29日(水)	16名
	7月22日(金)～27日(水)	20名
青少年を中心に募集し、岩手県沿岸部と宮城県岩沼市で活動(NPO法人ひゅーるぼん企画)	8月19日(金)～24日(水)	17名
福島県南相馬市鹿島区内の仮設住宅集会所で「土日お茶会サロン」開催 広島風お好み焼き 健康相談 ボランティアの特技を生かしたサロン	9月16日(金)～19日(月)	26名
	10月14日(金)～17日(月)	27名
●このお茶会サロンの開催にあたっては、(株)にしき堂様から毎回もみじ饅頭のご提供(全2500個)をいただきました。心よりお礼申し上げます。 ○被爆者N様はじめ、市民手作りのマフラー他、あったかグッズも預かり、直接お届けしました。	11月4日(金)～7日(月)	15名
	12月16日(金)～19日(月)	27名
◆このボランティアバスの運行にあたっては、(株)つばめ交通様に大変お世話になりました。毎回1名は同じ乗務員さんを配置いただき、スムーズに活動することができました。 ※運行及び活動経費は、参加費及び「本部」支援金で賄いました。 ※参加者の声から…被災地に行かないと分からないことがある。集団で行く良さ、様々な年齢層で行くことの良さを実感した。「会いに行く」ことで応援しているというメッセージを直接伝えることができた。地元の人同士の交流を生むきっかけづくりとなった。自分たちの活動は一過性のものなので、気になる方のことは地元スタッフにきちんと伝えたい。広島でできることもしたい。報告会や写真展を開催した。文通や手仕事を通じた交流を継続している。 ※南相馬K様からのおたより 「遠い所よりおいでいただきありがとうございます。あのお好み焼きは私たちの心の中に一生忘れることのできないあたたかい熱い味となることと思います。…そして楽しく過ごした思い出の写真に『うわーはすかしい、実物よりよく写してくれてうれしー』『どーれ 見せてー』『あいやーほんとだー』『私も写ってたら、こんなに美人だったかなー』などとみんなで大笑いでした。」	1月13日(金)～16日(月)	26名
	2月17日(金)～20日(月)	26名
	3月16日(金)～19日(月)	40名

◆このボランティアバスの運行にあたっては、(株)つばめ交通様に大変お世話になりました。毎回1名は同じ乗務員さんを配置いただき、スムーズに活動することができました。

※運行及び活動経費は、参加費及び「本部」支援金で賄いました。

※参加者の声から…被災地に行かないと分からないことがある。集団で行く良さ、様々な年齢層で行くことの良さを実感した。「会いに行く」ことで応援しているというメッセージを直接伝えることができた。地元の人同士の交流を生むきっかけづくりとなった。自分たちの活動は一過性のものなので、気になる方のことは地元スタッフにきちんと伝えたい。広島でできることもしたい。報告会や写真展を開催した。文通や手仕事を通じた交流を継続している。

※南相馬K様からのおたより

「遠い所よりおいでいただきありがとうございます。あのお好み焼きは私たちの心の中に一生忘れることのできないあたたかい熱い味となることと思います。…そして楽しく過ごした思い出の写真に『うわーはすかしい、実物よりよく写してくれてうれしー』『どーれ 見せてー』『あいやーほんとだー』『私も写ってたら、こんなに美人だったかなー』などとみんなで大笑いでした。」

- ボランティア活動保険加入受け付け 751名(2月末現在)(ボランティアバス参加者…260名 その他491名)

- 長期間被災地に行って活動する方もいました。
- 被災地に送る物資の仕分けや搬出に、緊急に活動していただいた方も多くあります。

- ボランティア事前登録者(平成23年4月16日で締め切り)

個人 296名(本部登録者) と 53名(NPOセンター登録者) 団体 20団体





# 知的障害疑似体験『ピーチクパーチク王国へようこそ!!』

平成23年度 やさしさ発見プログラム事業 福祉活動体験学習サポーター養成講座  
(知的障害・発達障害理解編)

埼玉県入間市には疑似体験を通して知的障害児者に対する正しい理解を広める活動をしている親の会「くれよんの会ピーチク隊」があります。

広島での知的障害児者理解をすすめるためのサポーター養成を目的として、ピーチク隊のみなさんをお招きし、その実践を学びました。

広島市手をつなぐ育成会や特別支援学級を通じて呼びかけ、知的障害児者、発達障害児者の家族から50名の参加がありました。日頃接している家族にとっても、疑似体験することで自らを振り返ることができ、多くの人に知的障害を理解してもらうことの大切さを改めて感じてもらえたようです。

講座終了後にはピーチク隊のみなさんと育成会の役員さんで交流し、埼玉と広島の親同士のつながりもできました。今後もピーチク隊からの協力をいただけることになり、早速、広島でもこの取り組みを実施していくため、「ピーチク隊広島版」のデビューを目指して動き始めています。

## 体験1 知的障がい疑似体験『ピーチクパーチク王国へようこそ』

「ピーチクパーチク」という言葉だけの世界では、伝えたいことがうまく伝わらない。  
「言われていることがわからない。」

- どう思ったか? どう感じたか?
- イライラしたり悲しくなったり不安になったりする気持ちを体験する。

## 体験2 知的障がい疑似体験『言葉だけで伝えてみよう』

Aさんは配布した紙の絵をみて、言葉だけで説明し、Bさんに同じ物を書いてもらう。制限時間を設け、残り時間を威圧的な声で言ったりして、わざとあせらせる。

- 伝えることの難しさを体験する。

## 体験3 知的障がい疑似体験『言葉を絵にしてみよう』

言葉を絵に書いてみよう

書きやすい言葉…わかりやすい言葉(りんご・ボール) 書きにくい言葉…わかりにくい言葉(少し・きちんと)

- 自分が体験することで、言葉でコミュニケーションできないもどかしさを感じる。
- わかりやすくするための工夫を紹介(コップに線を書く、しるしをつけるなど)

※例えば、ファミレスのメニューなどは写真があるため誰にでもわかりやすい。



体験1「ピーチクパーチク王国へようこそ」

# やさしさ発見プログラム(福祉活動体験)事業

平成18年度に試行を開始し、平成21年度から本格実施をした本事業は、年々申請件数が増え、本年度はおよそ170件に上りました。プログラムの内容も、視覚障害者理解、聴覚障害者理解、車いす利用者理解、高齢者理解と様々です。

また、参加者数も2万人に上り、「やさしさ」の輪がどんどん広がっています。

今回は、その中の1つ、小学3年生を対象に行われた、視覚障害理解学習を紹介します。

## 体験!

① 視覚障害者の話を聴きました



② アイマスク体験をしました



## 発見!!

③ 話を聴いたり、体験をしたりして、たくさんのことに気づきました

- ★ 目が見えなくても料理ができるのは、「すごいなあ」と思いました。工夫が大切なんだと思えました。
- ★ 一番心に残ったことは、目の見えない人が、線路に落ちて亡くなることです。そうならないようにするためにはどうしたらよいか、あきらめずに考えることが大切なんだということを知りました。
- ★ 点字がついた機械を見せてもらいました。目の見えない人にとって、このような便利な機械があることをはじめて知りました。
- ★ アイマスクをして「くだもの当て」をしたとき、においやさわった感じで、何なのかを見つけることができることがわかりました。
- ★ 音が鳴るボールを取りに行こうと思っても、はじめはどこにあるかわかりませんでした。でも、何度もしているとれました。

## ほっとけん!!!

④ 自分たちができることを考えました

- ★ また、来ていただいて話を聴いたり、遊んだりしたいです。視覚障害についてもっと知りたいです。
- ★ 目が見えない人が困っていたら声をかけたいです。
- ★ 教えてもらった「不可能を可能にする」を大切にがんばりたいです。

## 知的障害理解ハンドブック

『知ってほしい! わかってほしい! 知的障害』

「知的障害」について知ってもらうためのハンドブック「知ってほしい! わかってほしい! 知的障害」を発行しました。発行にあたっては、広島市手をつなぐ育成会のみなさんにご協力をいただきました。

今後、地域や学校で知的障害の理解をすすめるためのハンドブックとして活用していきます。



## サポーターデビューを目指して

平成23年度 車いすユーザーのつどい

(やさしさ発見プログラム事業 福祉活動体験学習サポーター養成講座)

車いすユーザーの方々に、自らの体験や人生を、子どもたちや地域の人たちに語るサポーターになっていただこう、交流を兼ねたサポーター養成講座を開催しました。当日は、学校や地域で講師経験のある方を中心に、10名の車椅子ユーザーの参加がありました。

はじめに、本会がすすめる「やさしさ発見プログラム事業」で、車いす利用者理解学習がどのように行われているかについて、実際の写真を参考にしながら説明し、その後、自己紹介を兼ねた情報交換を行いました。



### サポーター経験のあるKさん

「障害者も気持ちは皆と一緒。遊びに行きたいし、スポーツもしたい。でも、歩けないから車いすに乗っている。車いすでスポーツもできるが、車いすは正しく使わないと危険が多いことなどを伝えています。」

### サポーター未経験のTさん

「サポーターになって地域の实情に応じた話をしていけたらと思います。行動することで気がついてもらえるようにしたいです。」

車椅子体験を「怖かった…」だけで終わらせないようにするためにも、一人でも多くの学習サポーターに活躍していただき、みなさんの貴重な体験を伝えてもらいたいと思います。

これまで、車いすユーザーが集まる機会はあまりありませんでしたが、今回のつどいをきっかけに、つながりが広がっていくことが期待されます。

## 広げよう心のバリアフリー

### ～バス・路面電車の乗り方教室～

日頃から公共交通機関を利用している知的障害者を対象に、バスピーを使用した「バス・路面電車の乗り方教室」を開催し、合わせて、交通事業者と当事者がそれぞれの立場を理解するための意見交換を行いました。

3月4日(日)、宇品港にバスや電車の事業者18名、知的障害児者、発達障害児者と保護者等26名が集まりました。

まず、障害者が公共交通機関を利用して安心して外出できるように、交通事業者からバスピーの使い方や車内マナーについての話がありました。その後、体験用に用意されたバスと電車に、バスピーを使って乗り、実際にチャージをする体験を行いました。



体験後には、当事者のみなさん全員に感想を聞き、「初めてチャージをすることができてよかった」という感想や「どうしてバスピーのエラーがでるのか」などの質問が出されました。また、保護者からは「障害ゆえの行動を理解してもらい、やさしい対応をしてほしい」、「絵カードやコミュニケーション支援ボードのことを知ってほしい」などの要望が出されました。

事業者からは、エラーが出る理由や電車とバスのチャージの仕方の違いについての回答をいただくとともに、「連絡先がわかるものを携帯しておいてもらうと緊急時に対応しやすい」という提案もありました。

今回は、限られた時間の中でしたが、体験や意見交換を通して交流することができました。今後も継続して今回のような機会を作っていきたいと思えます。

## ボランティアセンターにようこそ!

12月14日、可部南小特別支援学級の児童9名が、ボランティア体験でボランティア情報センターに来てくれました。

センター内の見学、センターの役割についての話のあと、一人一台ずつ、車いすの掃除をしてくれました。この日のために、雑巾で拭く練習をしてきたとのこと、細かいところまで一生懸命磨いてくれました。そのあと、ピカピカになった車いすに、実際に乗ってみる体験と押してみる体験をしました。真剣に話を聞いて体験している子どもたちの顔がとても印象的でした。

最後に子どもたちからお礼の言葉と、事前学習で作成した、メッセージ入りの手作りのカレンダーをいただきました。カレンダーはセンター用に一枚と、もう一枚は東日本大震災の被災地へのメッセージが入ったものです。子どもたちのやさしい気持ちとかわいい笑顔にとても癒された一日でした。

(被災地へのカレンダーは南相馬市社会福祉協議会にお届けしました。)



ボランティアセンターの事務所に早速貼らせてもらいました。



# ★つながるボランティア★ コーディネーション力向上研修会

人との「絆」「つながり」を持ち得ていない人、持ちにくい人たちが増え、「無縁社会」がどの世代にも広がっているとされています。この課題に対して「ボランティア」の「ちから」、つまり市民相互のたすけあい「有縁社会」を創っていきけるよう、SOSを発信する当事者と出会う機会があり、しかも支援を通じて「人と人とのつながり」を創ろうとしている方を対象とした標記講座を12月12日、19日の2回に分けて開催しました。

## 1 支援当事者理解と社会資源理解

- 刑余者の支援をしているNPO法人：「塀の中より外の世界のほうが楽しいと実感できる”育ち直し”の支援と言えます。」  
→少しづつ地域のイベントで手伝いができるようになりました。
- 65才になったばかりのSさん：「各地を転々としてずっとひとりで生きてきた。ひとりでいることが苦にならない。でも人恋しい時もある。人間だから。誰かに家に来てもらいたいが、話すことがない。出かけるにしても、用事がないと出かけられん。ただで行けるところがいい。」
- 野宿経験のあるNさん：「夜回りの会や入浴サービスの人たちにお世話になりました。“ひとりじゃない”と思えるようになり、今ではスタッフとして手伝う側にまわっています。」



いろいろな生活支援ニーズに、介護保険等の制度外サービス（有償）で対応しておられる団体（WAC広島ふれあいセンター、生協ひろしまくらしの助け合いの会、NPO法人あいあいねっと）から、支援事例の紹介をしていただきました。

## 2 個別支援・訪問型ボランティアをコーディネートする際の留意点

京都福祉サービス協会 研修・ボランティア・実習担当の南多恵子先生から、講義ならびに事例検討の演習を行っていただきました。

※受講者の多くは地区社会福祉協議会のボランティアバンク関係者。「有償サービスへの理解が深まった。」「ボランティアによる支援を求める相談のフローがわかりやすかった」「演習で知恵を出し合ったのがよかった」「多面的にとらえるアセスメントをすることでコーディネートしやすくなるとわかり、情報を得るためにも連携が必要だと再認識した」といった感想が寄せられました。

## 居場所と出番づくりをすすめていきます

「人は必要とされることを必要とする」と言われるように、支援を受ける側になっている人も、「何か自分にできることはないだろうか」「自分の経験を語りたい、生かしたい」「自分を必要とされたい」という気持ちになるのではないだろうか。このような意思のある人たちの自助グループ兼ボランティアグループづくりをすすめています。

平成23年度は、野宿生活を経験し現在は住まいを得て暮らしておられる人たちのグループ作りを一つの区で取り組みました。毎回食事を作って食べるとともに、使用する福祉センターの掃除ボランティアも行いました。4月以降も自主グループとして活動していきます。

グループワーカーの荒谷千恵子さん（広島国際大学大学院生）は、次のように述べています。

「この活動が始まって半年あまりですが、回を重ねるごとに、仲間同士の絆が深まっていくように思います。これからも、さらに仲間づくりの輪が広がる会にしたいと思っています。」



# ボランティアコーディネーター養成講座

ボランティア活動が多様化してきており、ボランティアコーディネーターの役割はますます重要なものとなってきています。

こうした中、ボランティアコーディネーターのスキルアップをめざし、NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽんと共催で、ボランティアコーディネーターとして活動されている方又は今後担当する予定の方を対象とした「基礎編」、3年以上ボランティアコーディネーターとして活動されている方を対象とした「応用編」に分けて開催しました。

## <基礎編>

2月25日（土）、会場である西区地域福祉センターに、地区社協、病院関係、高齢者施設関係などから27名が集まりました。京都福祉サービス協会の南多恵子さんを講師として迎え、午前中はボランティア論、ボランティアコーディネーターの意義や役割について学び、午後はワークを通してコーディネートについて学びました。受講者の関心は高く、グループワークではそれぞれの立場・視点から熱心に意見を交わし、プログラムの企画を行いました。1日のみの短い研修でしたが、参加者同士のつながりができ、今後の地域での活動に役立てていただきたいと思います。



## <応用編> (★ぼらこ★バス★)

3月10日（土）、今回で2回目となる「★ぼらこ★バス★」（「ボランティアコーディネーターのバス見学」の略）は、参加者7名を乗せて出発しました。見学先は、可部の町づくりの一役を担う「かべ工房村（安佐北区亀山南）」と、学生ボランティア活動が活発に行われている「広島経済大学興動館（安佐南区祇園）」の2か所。

それぞれの施設では、活動内容のほか、どのような思いで施設が立ち上がり、いかに地域を巻き込みながら活動を発展させてきたかといった、裏話的なお話も聞かれました。

また、移動中の車内では「可部カラスの会」、「広島経済大学興動館」のナビゲートで、地域の状況についてお話いただき、理解を深めました。

特に可部カラスの会から「良いところはバク」というキーワードをいただき、参加者からまた参加したいとの声がかれるなど、和気あいあいとした雰囲気の中、講座が終了しました。



## 広島市ボランティア情報センター利用者連絡会大交流会

### ～ふれあい絆～

広島市ボランティア情報センター登録利用団体でつづっている利用者連絡会では、毎年大交流会を行なっています。今年は、2月26日（日）に東区総合福祉センターで開催し、15団体41名の参加でした。これまで面識のない方々と協力しながら、暗闇の中で色々な体験をし、互いの絆を深めることを目的に行いました。本来は明かり一つない暗闇の中で体験する企画でしたが、物理的に部屋を完全に暗くすることが難しいことから、アイマスクを使用しての体験になりました。1グループ10名程度の4グループで触覚・味覚・臭覚・聴覚をフルに使った4種のプログラムを各リーダーを中心にチームで力を合わせて行いました。

- プログラムは、
- ① さわってあてよう  
3つのお題を手でさわって、それが何であるかを当てる。
- ② お絵かき  
ひとりずつ人の顔または、自分の干支を描いてみる。
- ③ ボールころがし&自己紹介  
鈴の入ったボールを机の上で転がし、下に落ちないようにグループで手をつなぐ。自分のところにボールがきたら、一言自己紹介をし、またボールを転がす。



さわってあてよう



ボールころがし&自己紹介

④ 食べて当てよう  
ジュース1問、チョコレート1問、スナック1問。それぞれ2種類を食べ比べ、指定された物がどちらかを皆で話し合って当てる。

それぞれのプログラムを移動する時もグループの皆さんでつながり、協力をして絆を深めることができました。視覚に障害のある方からのアドバイスとスムーズなリードに助けられました。

### 参加者の感想として

- ・見えない状態で、声を掛け合うことの安心、手をつなぐことの安心を実感しました。
- ・心と心を中心に寄せることを実感しました。



移動の様子

昼食後、交流を深めるために参加団体の紹介をし、各団体の活動内容のほか近況についてPRしました。

グループごとに仲間意識が高まり、今後の活動においてコラボレーションができるのではないかと名刺交換をされた参加者もあられ、「絆を深める」大きな収穫でした。

大交流会終了後に、「交流会に参加して他の団体の活動を聞き刺激を受けた」と、ボランティア情報センターへ来られ、「自分たちのグループもボランティア活動の幅を広げることができないか」と、相談に来られ熱い思いを受けとめさせていただきました。